

有害化学物質から子どもを守るネットワーク（子どもケミネット）
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議 共催

どうなる！

EUの全面的PFAS禁止

有機フッ素化合物(PFAS)による地下水、水道水の汚染が日本全国各地で見つかり注目を浴びています。

昨年11月には世界保健機関(WHO)の関係機関である国際がん研究機関(IARC)が、PFASの一種であるPFOAに対して「人に対する発がん性がある」と判断しました。また、アメリカでは環境保護庁(EPA)が、非常に厳しい水道水基準(4ng/L)を今年中には決定する見込みです。一方、日本では1月に食品安全委員会のPFASワーキンググループが、外国や国際機関の科学的判断に異を唱え、発がん性は証拠不十分、PFASの毒性は不明な点が多いとして従来のTDI(一日許容摂取量)を維持するとする評価書案をまとめました。日本の水道水基準は現状の50ng/Lとアメリカ基準案の13倍も高いままとなり、日本と海外のPFAS対策の間に大きな差が開きそうです。

PFASには1万種類以上あると言われていますが、現在国際的に規制されているのはPFOS, PFOA, PFHxSの3物質だけです。そんな中欧州連合では、1万種類すべてのPFASを一つのグループとして捉え、原則全面的な製造・販売を禁止する法案が審議中です。最短で2025年中に採択される可能性があります。昨年9月までのパブリックコメントでは総数5,600件のコメントが提出されました。海外からの業界団体の反対意見も多く、全パブコメの内34%が日本からのもので、有機フッ素関連企業グループだけでなく、日本化学工業会、日経連、なんと経済産業省からも反対の意見が出されました。

産業界からの大きな圧力と、国際的な市民社会からの支援の中で、EUにおける決定がどのように行われるかは目を離すことができません。スウェーデン政府の出資により、有害化学物質のより厳格な規制管理を目指して設立された非営利団体ChemiSec(The International Chemical Secretariat)のシニア・ケミカル・ビジネス・アドバイザーであるヨナタン・クレイマーク博士に、EUのPFAS規制措置の最新情報をお話しいたします。ぜひご参加ください。

3月11(月)

18:00 開始 20:00 終了

参加費：無料

オンラインでの開催

参加申込/
QRコードまたは

下記URLより

ご登録を



ヨナタン・クレイマーク博士

Jonatan Kleimark PhD

ChemSec (The International Chemical Secretariat)

シニア・ケミカル・ビジネス・アドバイザー



<https://x.gd/ILDbx>

共催：有害化学物質から子どもを守るネットワーク(子どもケミネット)
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議(JEPA)

事務局：〒136-0071東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4F

■本件に関するお問い合わせは kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp または03-5875-5410

このセミナーは2023年度地球環境基金の助成を受けて開催されます。